

④ 調査結果からみえる現状・課題

1 一般住民調査

<大山崎町での暮らし（現在のこと）について>

大山崎町での暮らしについての問題点として、住みやすさの評価は概ね高いものの、一部に住みにくさを感じる人が存在します。自然環境や交通の便に対する評価は高い一方、医療・福祉サービスの満足度や娯楽・レジャーの機会に対する満足度は低くなっています。ショッピング施設の不足も大きな不満点であり、日常生活の不便さが指摘されています。特に若者の定住意欲が低く、18歳から29歳までの若年層で顕著です。また、高齢者にとって必要な医療の受けにくさや福祉サービスの充実度不足も課題となっています。

<これからの時代のまちづくりや町の将来について>

住民の暮らしの豊かさについて、物質的な豊かさを重視する意見と心の豊かさを求める意見に分かれており、将来に向けたバランスが重要であると考えられますが、18歳から29歳の若い年代では、物質的な豊かさを重視している傾向となっています。また、住民が求める将来像は自然環境や健康、交通整備など様々です。さらに、行政サービスを維持すべきとの意見も多くみられ、持続可能なサービスの提供が重要です。

2 小6・中学生調査

<大山崎町の住みやすさや魅力について>

住みやすさは「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と感じる割合が87.8%と高いものの、一部住民は「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と考えています。主な不満点として、ショッピングセンターや商店の少なさによる買い物や暮らしの不便さが挙げられ、56.2%がこれを指摘しています。町の魅力として緑が多く自然に恵まれている点が評価される一方で、商業施設の不足が問題となっています。

<大山崎町に住み続けることについて>

大山崎町に住み続ける意向は、現在の場所かその近くに住み続けたいと考える割合が30.4%と、別の場所に住みたいという割合（35.0%）が同程度となっています。子どもや若者が大山崎町に住み続けるためには、交通や買い物などの日常生活の利便性が必要とされており、それらの分野についてはまちの評価が低くなっています。

<大山崎町の将来像や地域活動への参加、まちの魅力向上について>

大山崎町の将来像や地域活動、魅力向上について、「山・緑と川に囲まれた自然の豊かなまち」を望んでいる他「子どもを育てやすいまち」を希望する声もあります。

また、地域活動への参加意向は高が高く、意向を実際の参加につなげていくことが重要です。特に環境美化活動には積極的な参加意向が見られますが、他の活動への参加は低くなっています。

3 職員調査

<大山崎町での暮らし（現在のこと）について>

大山崎町での暮らしに関する評価では、全般的に「まあまあ」という評価が多く（46.2%）、高い評価を示す回答は少ないです。子どもを育てるまちとしての評価も「まあまあ」が最多（40%）、「よい」（36.9%）が続きますが、60歳以上の層では低評価が目立ちます。また、仕事・商売をするまちとしての評価は「まあまあ」（38.5%）と「よくない」（38.5%）が同程度で、特に30歳代や40歳代での評価が低いです。退職後の暮らしとしても「まあまあ」（49.2%）が最多ですが、満足していない層も一定数（24.6%）存在しています。

<個別分野（現状と将来）について>

個別分野の現状と将来について、行政サービスのあり方では「他の自治体に遅れない程度に対応する」（35.4%）、「限られた条件内で対応する」（33.8%）の回答が多く、「住民要望を先取りして対応する」は20%と低くなっています。行政サービスと住民負担については「行政サービスの水準を維持する」が60%と多い一方で、住民は金銭的負担をそのまま維持したい意向（38.3%）が見られ、負担軽減と行政サービスの提供体制の維持が重要です。地域活動の参加意向については、「これからできれば参加したい」が33.8%と最も多いが、「あまり参加したくない」（29.2%）、「参加したくない、参加できない」（21.5%）が多く、消極的な意向が強いです。